

報道関係各位

第 58 回国際化学オリンピック ウズベキスタン大会 日本代表生徒の成績について（銀メダル 4 個）

拝啓 盛夏の候、報道関係の皆様方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび、世界 93 か国・地域・他の高校生 363 名が化学の実力を競い合う“化学の祭典”『第 58 回国際化学オリンピック ウズベキスタン大会(タシケント)』(7/10～7/19)に参加した日本代表生徒 4 名の成績が文部科学省より発表されましたので、添付にてご報告申し上げます。

ご多用中とは存じますが、ご高覧いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

敬具

2026 年 7 月 21 日

「夢・化学-21」委員会
公益社団法人日本化学会



ウズベキスタン大会の様子

左から岡添、東、上吹越、宝田

(写真提供: 左 日本化学会)

(写真提供: 中央・右 ウズベキスタン大会ギャラリー)

<https://www.icho2026.uz/gallery>



令和8年7月21日

国際化学オリンピックに参加した生徒全員が銀メダルを獲得しました
また、国際的な科学技術コンテストで特に優秀な成績をおさめた生徒に対する
文部科学大臣表彰の受賞者を決定しました

文部科学省では、国立研究開発法人科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しています。このたび「第58回国際化学オリンピック（開催国：ウズベキスタン）」に参加した生徒全員が、銀メダルを獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

また、文部科学省では、国際的な科学技術コンテストにおいて、特に優秀な成績をおさめた者等に対して文部科学大臣表彰等を行っており、このたびの成績を踏まえ、受賞者を決定しましたので、併せてお知らせします。

（共同発表：「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会）

1. 受賞状況：銀メダル4名

（上記4名全員が文部科学大臣表彰を受賞する）

※金メダルは参加者の上位約1割、銀メダルは次の約2割、銅メダルはその次の約3割の割合で与えられる。

2. 参加者および受賞者詳細：

かみひごし ゆうや 上吹越 結也さん	広島大学附属福山高等学校（広島県）	3年	銀メダル
おかぞえ こうき 岡添 皇樹さん	灘高等学校（兵庫県）	3年	銀メダル
あずま ひこひろ 東 彦宏さん	灘高等学校（兵庫県）	3年	銀メダル
ほうだ ときや 宝田 怜弥さん	京都市立京都工学院高等学校（京都府）	1年	銀メダル

3. 参加国数/人数：93か国・地域・他 / 363名

4. 場所 / 期間：ウズベキスタン（タシケント）/
令和8年7月10日（金）～7月19日（日）

5. 派遣機関：「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会

（お問合せ先）

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課 徳永、高島

電話：03-6734-4191（直通）

公益社団法人日本化学会 大倉、日置、武田

電話：080-7398-0468、mail：grand-prix@chemistry.or.jp

◆大会概要

- 国際化学オリンピックは1968年に東欧3か国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）にて第1回大会が開催。
- 2026年のウズベキスタン大会は、第58回目。
- 日本は、2003年から参加を開始し、毎年4名の生徒を派遣。本年は24回目の参加。
- 昨年のアラブ首長国連邦大会は、90か国・地域・他から354名の生徒が参加し、日本は金メダル1名、銀メダル3名受賞。
- 本年のウズベキスタン大会は、93か国・地域・他から363名の生徒が参加し、日本は銀メダル4名受賞。

◆日本代表団（参加生徒）の日程

- 7月10日（金） 選手団日本出発・現地到着
- 7月11日（土） 開会式・各国生徒との交流活動
- 7月12日（日） 各国生徒との交流活動
- 7月13日（月） 実験課題・各国生徒との交流活動
- 7月14日（火） 各国生徒との交流行事
- 7月15日（水） 理論試験・各国選手団の夕食会
- 7月16日（木） 各国生徒との交流活動
- 7月17日（金） 各国生徒との交流活動
- 7月18日（土） 閉会式・送別夕食会
- 7月19日（日） 選手団現地出国・帰国

◆国際化学オリンピックにおける過去3年間の日本代表の成績

- 2023年（第55回 スイス・チューリッヒ大会）
金メダル2名、銀メダル2名（参加規模：89か国・地域・他、348名）
- 2024年（第56回 サウジアラビア・リヤド大会）
金メダル2名、銀メダル2名（参加規模：90か国・地域・他、327名）
- 2025年（第57回 アラブ首長国連邦・ドバイ大会）
金メダル1名、銀メダル3名（参加規模：90か国・地域・他、354名）

◆国際化学オリンピック（IChO=International Chemistry Olympiad）

1968年に東欧3か国（ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会である。

大会は世界の高校生等が一堂に会し、化学の実力を競うと同時に親交を深めることを目的としている。例年は毎年7月に10日間の日程で開催され、生徒らはそれぞれ5時間の実験課題と理論問題に挑戦する。日本は2003年のアテネ大会より参加している。

◆化学グランプリ

化学グランプリは、国際的にも通用する若い化学者を育てることを目的として、「夢・化学-21」委員会と日本化学会が1998年、東京と仙台の2か所で試験的に実施したのが始ま

りである。翌 1999 年から、「化学グランプリ」(2012 年改称)として全国規模で開催されるようになり、今日では申込が 3,000 人を超える大会に発展している。毎年、本大会の参加者から次の年の「国際化学オリンピック」への代表候補生徒を選抜しており、参加者のうち高校 2 年生までの成績優秀者 20 名程度が一次代表候補生徒として推薦されている。

◆参考資料に関するお問合せ先

公益社団法人日本化学会 大倉、日置、武田

電話：080-7398-0468

Mail：grand-prix@chemistry.or.jp

ホームページ：<https://icho.csj.jp/>

「夢・化学-21」委員会事務局（一般社団法人日本化学工業協会広報部内） 羽方

電話：03-3297-2555

ホームページ：<https://www.kagaku21.net/>